# 高圧蓄電所（系統用蓄電所）の全国件数　推計レポート

― 需給調整市場（一次調整力オフライン）の実取引データによる実測ベース推計 ―

2026 年 10 月 31 日　　EMCcore 株式会社

## 1. 結論

高圧蓄電所の件数を直接示した公表統計は存在しない。しかし需給調整市場・一次調整力（オフライン）の実取引データを使えば、稼働中の基数を実測に近い形で捕捉できる。2026 年 10 月の実績から、稼働中は 440〜620 件、中心値で約 520 件と推計される（前回 10 月 1 日版：370〜520 件、中心値 約 430 件）。基数は 1 か月で約 50 件増える一方、単価は 9 月に続いて 10 月も急落した。

| 開発段階 | 推計件数 | 根拠 |
|---|---|---|
| 接続検討の申込中 | **年間 1 万件規模** | 2025 年度の高圧・接続検討受付 11,602 件（全電源／蓄電池 86%）。大半が「空押さえ」で実体を伴わない。 |
| 契約申込〜接続契約締結済<br>（建設前・建設中） | **2,000〜3,000 件** | 2025 年度の高圧・契約申込受付 2,153 件（全電源／蓄電池 74%）。過年度分を累積。今後 2〜3 年で順次運開。 |
| 運転開始済み<br>（稼働中） | **440〜620 件<br>【中心値 約 520 件】** | 一次オフラインの実測応札件数 309 件（2026 年 10 月）を参加率で割戻し、連系済み容量（2026 年 6 月末 128 万 kW）と照合。 |

## 2. 推計①　一次調整力オフラインの実取引データ（EPRX 2026 年 1〜10 月）

*10 月は速報値（1〜9 月は確報値）。3 月は月内で 180 分ブロックから 30 分ブロックへ移行。応札件数はエリア別の月内最大値を 9 エリアで合計した値。

| 2026 年（一次オフライン） | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月* |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 募集量 平均［MW］ | 1,140 | 1,155 | 581 | 501 | 498 | 497 | 496 | 497 | 498 | 501 |
| 応札量 平均［MW］ | 84 | 101 | 119 | 155 | 201 | 256 | 323 | 365 | 418 | 464 |
| 約定量 平均［MW］ | 80 | 95 | 102 | 132 | 171 | 175 | 206 | 237 | 265 | 300 |
| 平均約定価格［円/kW・30 分］ | 18.15 | 18.13 | 12.24 | 12.24 | 12.48 | 11.69 | 10.20 | 9.59 | 5.95 | 2.69 |
| 応札件数 月内最大［件］ | 61 | 72 | 87 | 116 | 128 | 175 | 206 | 235 | 259 | 309 |

■ 一次調整力オフラインは、EPRX 取引規程上の参入要件が「設備容量 1MW 以上 10MW 未満」で、10MW 以上はオンライン接続が必須。蓄電池の落札シェアは 98.9%であり、実質的に高圧蓄電所専用の商品である。

■ 1 件あたりの平均約定量は 1.84MW（1 月）から 1.93MW（10 月）で推移している。応札 1 件が 2MW/8MWh 級の高圧蓄電所 1 基に対応することが実データで裏付けられており、件数をそのまま基数として読める。

■ 応札件数は 1 月 61 件から 10 月 309 件へ増加した（月平均 約 28 件増、9 月→10 月は+50 件）。これが「稼働中かつ一次オフラインに参加している高圧蓄電所」の実測値であり、全体の下限となる。一次オンライン・複合商品への参加、スポット／時間前市場専業のマーチャント運用、運開直後で未登録の分を考慮し、オフライン参加率を 50〜70%とみて割り戻すと 440〜620 件。

## 3. 推計②　連系済み容量からの逆算（クロスチェック）

■ 系統用蓄電池（高圧以上）の連系済み容量は、84 万 kW（2026 年 3 月末）から 128 万 kW（2026 年 6 月末）へ、3 か月で 44 万 kW 増えた（資源エネルギー庁、2026 年 10 月 6 日公表）。

■ 高圧と特別高圧の内訳は公表されていない。前回と同じく特別高圧を 25〜30 万 kW とみて控除すると、6 月末の高圧分は約 98〜103 万 kW で、2MW で割ると 490〜515 件となる。これは同じ 6 月の一次オフライン応札件数（175 件）の約 3 倍で、参加率 50〜70%から逆算される水準（250〜350 件）を上回る。特別高圧の比率が想定より高いか、一次オフライン以外で運用されている高圧蓄電所が想定より多いかのいずれかであり、推計①はやや少なめの推計となっている可能性がある（観測）。本レポートでは実測に基づく推計①を基本とし、中心値を約 520 件と置いた。

## 4. 9〜10 月の単価急落と収益環境

■ 需給調整市場の上限価格が 15 円から 10 円へ引き下げられ、2026 年 9 月 1 日の実需給分から適用された（対象は一次調整力・二次調整力①・複合商品。二次調整力②・三次調整力①は 7.21 円で据置、三次調整力②は上限なし）。事前試算では影響が全国▲8.6%、商品別では一次オフラインが最大の▲22.1%とされていた。

■ 実績はこれを上回る下落となった。9 月の平均約定価格は 5.95 円で、8 月の 9.59 円から 38%の低下。10 月はさらに 2.69 円まで下がり、9 月から 55%、8 月からは 72%の低下となった。

| 2026 年 10 月 | 上旬（1〜10 日） | 中旬（11〜20 日） | 下旬（21〜31 日） | 月平均 |
|---|---|---|---|---|
| 日次平均約定価格［円/kW・30 分］ | **3.37** | **2.75** | **2.01** | **2.69** |

■ 上限価格の影響が一巡した 10 月も下落が止まっていない。月初 3.04 円（10/1）から月末 1.69 円（10/31）まで、9 月（7.62 円→5.22 円）に続いて月を通じて下がり続けた。

■ 原因は応札の急増にある。10 月の応札量は 464MW で、募集量 501MW の 92%に達した（9 月 84%）。これに対し約定は 300MW にとどまり、応札の約 35%が不落札。枠を取り合う価格競争が単価を押し下げている。約定率（約定量÷募集量）は 53.2%（9 月）から 59.8%（10 月）へ上昇した。

## 5. エリア別の状況（2026 年 10 月）

| エリア | 9 月 応札件数 | 10 月 応札件数 | 増減 | 9 月 平均約定価格 | 10 月 平均約定価格 | 所見 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 北海道 | **4** | **6** | **+2** | **1.37** | **4.33** | 参入は少ないが、単価は上昇。 |
| 東北 | **20** | **26** | **+6** | **9.51** | **4.95** | 単価は半減したが全国最高を維持。 |
| 東京 | **65** | **84** | **+19** | **8.57** | **3.92** | 応札全国最多。単価が大きく崩れた。 |
| 中部 | **70** | **82** | **+12** | **3.65** | **2.08** | 応札が募集量を大きく上回る。 |
| 北陸 | **2** | **2** | **0** | **3.18** | **3.01** | 市場が立ち上がっていない。 |
| 関西 | **22** | **26** | **+4** | **3.24** | **2.08** | 応札の伸びに対し単価が低い。 |
| 中国 | **23** | **28** | **+5** | **3.31** | **1.71** | 同上。 |
| 四国 | **2** | **2** | **0** | **2.72** | **1.62** | 募集量が小さく参入余地が乏しい。 |
| 九州 | **51** | **53** | **+2** | **3.02** | **1.38** | 単価が全国最低まで低下。 |
| 合計・月平均 | **259** | **309** | **+50** | **5.95** | **2.69** | |

エリア別の平均約定価格は電源属地別の平均約定価格を約定量で加重平均した値（9 月も同じ方法で再計算）。合計欄は全国の平均約定価格（コマ平均）。

■ 単価はエリアによって 3 倍以上の開きがある（最高東北 4.95 円、最低九州 1.38 円）。前回まで例外だった東京も、応札件数が 65 件から 84 件へ増えて全国最多となり、8.57 円から 3.92 円へ半分以下に下がった。東京・中部・九州の 3 エリアでは、10 月の応札量（コマ平均）が募集量を上回っている。東京エリアの相対的な優位は失われつつある。

## 6. 留意点

■ 10 月は速報値である。確報値は翌月末ごろに公表される。9 月分の確報値（10 月末公表）では、応札件数 259 件・平均約定価格 5.95 円とも速報値から変わらず、約定量が 266MW から 265MW へわずかに修正された。

■ 最大の不確実性はオフライン参加率の前提（50〜70%）にある。±10 ポイントの振れで推計値は▲70 件〜+100 件動く。連系済み容量との照合（3 章）からは、実際の参加率は 50%を下回り、件数は推計より多い可能性もある。参加率は実測できないため、精度を上げるには事業者へのヒアリングが必要となる。

■ 一次オフラインの募集枠は約 500MW で頭打ちである。応札は 10 月に 464MW（募集量の 92%）まで来ており、9 月→10 月の増加（+45MW）が続けば、11〜12 月にも全国で応札が募集量を超える計算になる。単価下落と非落札の増加は構造的に続くため、一次オフライン専業での収支は成り立ちにくくなる。

出典：電力需給調整力取引所（EPRX）「需給調整市場 取引結果（一次オフライン）2026 年 1〜10 月」（2026 年 10 月 31 日取得）／OCCTO「発電設備等系統アクセス業務に係る情報の取りまとめ」／資源エネルギー庁 次世代電力系統 WG 資料（2026 年 8 月 6 日・10 月 6 日）・需給調整市場・次世代電力系統 WG 資料／ScienceX／Postation

**免責事項**
本資料は、公開情報および信頼できると判断した情報に基づき作成したものであり、市場環境や業界動向を理解するための参考資料です。記載内容の正確性・完全性について保証するものではなく、本資料の利用により生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いません。